

『Projets de paysage』23号 寄稿案内（2020年12月刊行予定）

テーマ研究

「日仏の交差する視点－現代日本におけるペイザージュ（景観）と住民の自主性、地域のアクション 1990年代から今日まで」

コーディネーター：

シリル・マルラン (Cyrille Marlin) ランドスケープデザイナー、地理学者、フランス・ボルドー国立建築景観学校准教授、PASSAGES-UMR 5319 CNRS 所属研究員

田中 尚人 かまちづくり（専門：景観史、参加型まちづくり）、日本国立熊本大学熊本創生推進機構准教授、Regional Environment Laboratory 所属研究員

「Projets de paysage」23号の刊行には、2つの目的がある。一つは現代日本の研究者たちの、景観のコンセプトに対する考え方や景観に関わる実践にアクセスすること、もう一つはフランスの日本研究者たちの、景観をテーマにした最新の論文を紹介することである（フランス語の「ペイザージュ (Paysage)」は様々な意味を持つが、本テキストでは便宜上「景観」と訳す）。住民の自主性の問題は、上の2つの目的を達成するために適切なテーマだと思われる。景観についての考察が、今日の日本の環境社会的な発展にどの程度貢献しているのか？住民の日常生活のレベルでのまちづくりの実践に、どのように貢献しているのか？景観のコンセプトは、どのような仕方で住民や地方自治体に役立てられているのか？空間管理および地域整備において、景観のコンセプトを利用して住民に益するイノベティブな実践を行うには、どのような条件が必要なのか？

数十年前から、日本に関する様々な研究は、フランスにおける景観の考察に大きく寄与してきた。ジャック・ベズ＝マサブオ、オーギュスタン・ベルク、フィリップ・ベルティエ（地理学）、ニコラ・フィエベ、マルク・ボルディエ、フィリップ・ポナン（建築と都市）、アンドレ・ギヨーム（日本土木工学史）、ジャン・コビ（人類学）などの著名な日本研究者の名を挙げることができる。1970年代に社会科学高等研究院（EHESS）に設置された現代日本研究グループを前身とする日本研究所（CRJ）や1959年設立の日本学高等研究所（IHEJ）、そしてINALCOの日本研究所によって、景観を通して日本社会を理解するための多くの基本概念が共有され、研究者たちの輪を広げる一助となった。しかし、景観および景観に関わる実践を研究する日本人研究者たちのフランス語での著作は多くはない。政治学、哲学、社会科学分野では、フランス国立科学研究センター（CNRS）から重要な著作（中江兆民、幸徳秋水、和辻哲郎、勝俣鎮夫など）の翻訳が刊行されている。フランス人研究者が70年代～80年代の日本で生まれた景観についての思想を理解するためには、「風景学入門」（中村、1982）や、「日本の景観-ふるさとの原型」（樋口、1981）などの翻訳が是非とも必要であろう。これらの著作は、フランスでは主にオーギュスタン・ベルクの業績を介して、現代の文化的視点からの景観研究の発展に決定的な役割を果たし、今もなお日仏の景観研究者やランドスケープデザイナーに影響を与えている。

景観と地域の自主性の関係を確立する

日仏の研究者たちは、住民の自主性にどのような意味を与えているのか？景観のコンセプトはどちらかと言えば連帯を連想させるが、自主性の概念はむしろ分離の意味を含んでいるように思われる。それでも自主性の概念を景観の概念と結びつけるだろうか？

景観と地域の自主性の関係は、日本においてもフランスにおいても自明のことではない。景観は、伝承されるべき遺産としての文化的価値、あるいは、共同体の価値、表象システム、文化的実践や生活様式のもとに広く人々を集結させる傾向を持つ、地域アイデンティティに関わる共同資産の価値と結びつけられることが多い。そのような景観概念は、多かれ少なかれ中央集権的な行政的マネジメントが、少なくともその象徴的、社会的基盤のために、慣習的に景観を利用することを助長している。

日本の特殊なコンテキストにおいて住民の自主性の概念を捉えることは、日本人の存在論的基盤とかけ離れた、西欧的な「個人」の視点から見るとすれば、おそらく簡単なことではないだろう。むしろ、日本社会をスキーマ通りに他律的なものとして捉える傾向が強いのではないか。しかし他律性は、景観デザイナーであり研究者でもあるアルバン・マニシが強調するように、日本では独自の傾向を帯びる。「各々の行動に影響を与える可能性のある共同体の規則を受け入れる能力は、住民を文化的制約から解放し、地域において違う風に行動できるという意味において、住民にとってはプラスに働くように思われる（…）。日本における他律性は、ネットワーク社会と呼ばれるものを作り出したのだ。」（MANNISI, 2017年）ネットワーク社会は、政治性を強く持った地域活動のオルタナティブとして提示される。自主性と他律性が対立するような場合、日本においては亀裂が生じる。この亀裂は、特に景観整備、景観づくりや景観計画における地域活動を見れば明らかだ。自主性と景観の関係をここで取り上げるのは、つまり景観についての問いが何らかの役割を果たす住民の解放のプロセスを論じたいからだ。そのプロセスは、非習慣的な共同体組織の形成、保護、発展によって実現される。言い換えれば、ブルーノ・ラトゥールのいう意味でのネットワーク化された社会（LATOUR, 2006年）によって実現される。ここでは、「さまざまなモノ-人」の周りに（あるいはそれらとともに）、状況に応じて時に驚くべき特殊性を持って作られたり解体されたりする、開かれ、変化していく共同体のコンセプトに賛同しなければならない。

多かれ少なかれ自主的な地域の景観づくりのデバイスを探究する

したがって本誌 23 号では、日常環境を変えるために、住民や市民のグループによって/と共に行われる地域活動のプロセスまたはデバイスの内部で、景観のコンセプトがどのように使われているのかを探っていきたい。

これらのデバイスの性質は、非常に多様であり得る。この多様性を示すこともまた、本号の目的の一つである。これらのデバイスは、景観の問題と多少なりとも関連のある社会的状況、（臨時または常設の）組織に属している。また、様々な地理学的空間と、組織、関与者および住民の数と質に関係している。しかし、いずれにせよこれらのプロセスまたはデバイスは、慣習的な政治のプロセスとは別の経路で、整備形態や空間管理、景観的实践の保護、維持そして発展を生み出すものでなければならず、あるいは少なくともこれまでの慣習的なやり方を変えることのできる力を証明するものでなければならぬ。この場合、自主性のレベルはかなり変動する。地域の政治・社会的な動きに大きく依存する場合もあれば、ほぼ完全に切り離されている場合もある。重要なのは、「自主性への進化の過程」を理解することである。地域の問題を解決するための新たな組織づくりが、進化の指針となる。あるデバイスにおいて利用された集団の想像力と、景観に付与された役割や意味を明らかにすることが特に重要である。

日本における他律性は、住民-市民のネットワーク組織づくりに有利に働いてきた。数十年前からすでに、まちづくり（BROSSEAU, EGUCHI 2014年, MARMIGNON 2010年）や住民運動（EGUCHI 2014）などの、住民が自らの居住地域の改良に様々な形で関わっていく集団活動が存在する。だが今日では、景観に特別な地位を与える住民-市民の組織も登場している。今日の不安定な日本社会のコンテクストにおいて、過去の状況に対し与えられてきた慣習的な答えは効力を失いつつある。日本国民は、自らの日常の空間を整え、管理し、使用するための新しい方法を、地域ごとに考えることを後押しされているのである。様々な社会的大変動は、今や日本人の日常の一部となっている：人口の高齢化、田舎や小都市の過疎化、社会的団結を維持し、教育的役割を果たしていた一定数の集団的実践の衰退、貧困化の様々な形での可視化、日本経済の衰退、市町村や地方公共団体組織の近年の再編成、2014年に発表された地方創生政策。毎年のように繰り返される災害（水害、地震、噴火など）は、これまで有効だった解決策の相対的な無力さを明らかにし、空間管理と日常生活の維持を妨げる新たな問題となっている。「2011年の東日本大震災」の後に提示された問いは（Ebisu 2012）、これらの問題を明らかにし、新たなコンテクストに対応するため、過去とは異なるやり方で地域的に考え、行動する必要を的確に指摘している。さらに、2016年に熊本県でおきた熊本地震では、一部の研究者や地域の政治家が、地域づくりの新たなダイナミクスを構想する必要を要請する新しい用語を用いて、「復興」の問題を取り上げた（田中、2017年）。

寄稿条件

本誌の審査委員会は、3タイプの論文を審査対象とする。

1. 日本人研究者が日本の事例について論じた論文
2. フランス人研究者が日本の事例について論じた論文
3. 日本人研究者がフランスの事例を取り上げた論文

さまざまな研究、活動分野からの寄稿をお待ちしております。

テーマ特集と「マチエール・プルミエール」

2つの区分で、寄稿の募集を行います。「テーマ特集」は、従来のタイプの学術論文、「マチエール・プルミエール」では、特集テーマに対し考察のヒントを与える非学術的なテキスト（事例報告、記録、プロジェクトの事例報告）などを募集します。

寄稿者は、どの区分に寄稿するのかを最初に明記してください。

参考文献簡易リスト

BERQUE, Augustin, « Milieu, co-suscitation, désastres naturels et humains », *Revue Ebisu. Catastrophe du 11 mars 2011, désastre de Fukushima : fractures et émergences*, n° 47, 2012, p. 41-48.

BONNIN, Philippe, NISHIDA Masatsugu, INAGA Shigenami (dir.), *Vocabulaire de la spatialité japonaise*, Paris, CNRS éditions, 2014, p. 605.

BONNIN, Philippe, PEZEU-MASSABUAU Jacques, *Façons d'habiter au Japon, Maisons, villes et seuils*, Paris, CNRS éditions, 2017, p. 494.

BOUTEILLER, Christine, « Le géographe et l'île », film documentaire sur le travail du géographe Philippe Pelletier, Scotto Productions – 2018, 73 min.

BROSSEAU, Sylvie, EGUCHI, Kumi, « *Machizukuri* まちづくり l'urbanisme participatif », dans BONNIN, Philippe, NISHIDA, Masatsugu, INAGA, Shigenami (dir.), *Vocabulaire de la spatialité japonaise*, Paris, CNRS éditions, 2014, p. 305-307.

COBBI, Jane, *Le Végétal dans la vie japonaise. L'utilisation de plantes sauvages dans un village de montagne Kaida-mura*, Paris, Publications Orientalistes de France, 1978, 153 p.

EGUCHI, Kumi, « *Jûmin undô* 住民運動 les mouvements habitants », dans BONNIN, Philippe, NISHIDA, Masatsugu, INAGA Shigenami (dir.), *Vocabulaire de la spatialité japonaise*, Paris, CNRS éditions, 2014, p. 207-209.

GROUT, Catherine, « L'architecture comme expérience sensorielle, culturelle et sociale : au sujet de quelques projets de Naito Hiroshi », *Journal des anthropologues. Le nœud architectural*, n° 134-135, 2013, p 109-128, URL : <http://journals.openedition.org/jda/4762> ; DOI : 10.4000/jda.4762.

HIGUCHI, Tadahiko, *Nihon no keikan. Furusato no genkei* (« Les paysages du Japon. Archétypes du pays natal ») (1981), Tokyo, Chikuma gakugei bunko, 1993, 290 p.

KATSUMATA, Shizuo, *Ikki, Coalitions, ligues et révoltes dans le Japon d'autrefois* (1982), trad. et introd. de Pierre-François Souyri, Paris, CNRS éditions, 2011, p. 268.

LATOURE, Bruno, *Changer la société, refaire de la sociologie*, Paris, La Découverte/Poche, Paris, 2006.

MANNISI, Alban, « Philosophie politique radicale du paysage au XXI^e siècle et ressources anarchistes », *Grand Angle*, 25 juin 2017, URL : <http://www.grand-angle-libertaire.net/philosophie-politique-radical-du-paysage-au-xxie-siecle-et-ressources-anarchistes/>.

MARLIN, Cyrille, « L'espace public, une utopie. Le quartier de Yanaka à Tokyo », dans collectif, *Utopie*, Bordeaux, Le Castor Astral, 2010, p. 110-134.

MARMIGNON, Patricia, « Communautés de quartier et associations : le retour au local après le 11 mars 2011 », *Revue Ebisu. Catastrophe du 11 mars 2011, désastre de Fukushima : fractures et émergences*, n° 47, 2012, p. 215-221.

MARMIGNON, Patricia, *La Création de l'urbain. Paysage urbain et socialité à Osaka depuis Meiji (1868)*, Sarrebruck, EUE, 2010, p. 257.

NAKAMURA, Yoshio, « La raison-cœur des co-suscitations paysagères. Les fluctuations du paysage entre corps, lieu et langage », *Revue Ebisu*, n° 49, 2013, p. 73-90.

NAKAMURA, Yoshio, « Tradition paysagère et postmodernité au Japon », *Le Débat*, n° 65, mai-août 1991, Paris, Gallimard, p. 75-87.

NAKAMURA Yoshio, *Fûkeigaku nyûmon (Introduction aux études paysagères)*, Tokyo, Chûô Kôron sha, 1982, 244 p.

NAKAMURA, Yoshio, SAITO, Ushio, PELLETIER, Philippe, BOURDIER Marc, « Mise en scène des espaces du bord de l'eau. Techniques japonaises jusqu'au milieu du XIX^e siècle », *Revue de géographie de Lyon*, vol. 65, n° 4, 1990, p. 277-289.

PELLETIER, Philippe, « Paysages sans paysans. Le cas du Japon », *Annales de Géographie*, t. 99, n° 553, 1990, p. 305-327.

PREMAT, Christophe, IWABUCHI, Yasushi, « L'évolution de la participation civique au Japon », *Revue Ebisu*, n° 42, 2009, p. 19-43.

TANAKA, Naoto, « Régénération urbaine et « revitalisation locale. La construction participative du *furusato* (à partir des conditions de reconstruction participatives créées par le séisme de Kumamoto) », dans MARLIN, Cyrille (dir.), *Autour de Nakamura Yoshio, une pensée du paysage entre France et Japon*, Bordeaux, Presses universitaires de Bordeaux, 2019 (à paraître).

WATSUJI, Tetsurô, *Fûdo. Ningengakuteki kôzatsu* (1935), Tokyo, Iwanami bunko, 2010, 370 p. ; *Fûdo. Le milieu humain*, trad. et Introd. d'Augustin Berque, Paris, Éditions du CNRS, 2011, 330 p.

投稿案内

- ・簡単な参考文献リストを含む2ページ程度のレジюме（フランス語で約6000字、日本語で約3500字）と、5つのキーワード、研究分野名を、2019年12月20日までに、Eメールでお送りください。送付先：Emmanuelle Passerieux-Gibert（エマニュエル・パスリユー・ジベール）：projetsdepaysage@gmail.com
- ・レジюме審査の後、寄稿いただく方には、2020年1月4日に**依頼状**をお送りします。
- ・テキストの最終提出期限は、**2020年6月4日**です。送付先：Emmanuelle Passerieux-Gibert（エマニュエル・パスリユー・ジベール）：emma.passerieux@editographie.com

- ・「テーマ特集」：テキストの字数はフランス語で 30000～50000 字（スペース、注、参考文献を含む）。または日本語で 14000～22000 字（レジュメと参考文献を含む）。いずれも、既定の字数を超えるテキストは受け付けません。
- ・「マチエール・プルミエール」：フランス語 15000～30000 字（スペース、注、参考文献を含む）。日本語 7000～14000 字（レジュメと参考文献を含む）。いずれも既定の字数を超えるテキストは受け付けません。
- ・テキストのレイアウトなどの規定については、本誌 WEB サイトをご参照ください。
http://www.projetsdepaysage.fr/fr/conseils_aux_auteurs

刊行責任者 ヴァンソン・ピヴトー (Vincent Piveteau)

編集委員会

- ・ Sabine Bouché-Pillon, maître de conférences en écologie urbaine à l'École de la nature et du paysage de Blois, INSA Centre Val de Loire, UMR 7324 CITERES (CNRS - université de Tours)
- ・ Nathalie Carcaud, professeure de géographie à Agrocampus Ouest (pôle paysage d'Angers), UMR 6590 CNRS Espaces et sociétés (ESO)
- ・ Bernard Davasse, géographe, professeur à l'École nationale supérieure d'architecture et de paysage de Bordeaux, Passages-UMR 5319 CNRS
- ・ Hervé Davodeau, maître de conférences en géographie à Agrocampus Ouest (pôle paysage d'Angers), UMR 6590 CNRS Espaces et sociétés (ESO)
- ・ Catherine Grout, professeure en esthétique, HDR, École nationale supérieure d'architecture et de paysage de Lille, chercheuse au Laboratoire Conception Territoire Histoire Matérialité (LACTH)
- ・ Dominique Henry, paysagiste, docteur en géographie-aménagement, maître de conférences à l'École nationale supérieure d'architecture et de paysage de Lille, Passages-UMR 5319 CNRS
- ・ Cyrille Marlin, paysagiste et géographe, maître de conférences à l'École nationale supérieure d'architecture et de paysage de Bordeaux, laboratoire PASSAGES-UMR 5319 CNRS
- ・ Yves Petit-Berghem, géographe, professeur à l'École nationale supérieure de paysage de Versailles-Marseille, Laboratoire de recherche en projet de paysage (Larep)
- ・ Sylvie Servain, géographe, professeure des universités, département École de la nature et du paysage, INSA Centre Val de Loire, UMR 7324 CITERES (CNRS-université de Tours)
- ・ Monique Toubanc, sociologue, ingénieur paysagiste, maître de conférences à l'École nationale supérieure de paysage de Versailles-Marseille, Laboratoire de recherche en projet de paysage (Larep)

学術委員会

- ・ Sylvie Brosseau, architecte-chercheur, université Waseda à Tokyo
- ・ Serge Briffaud, historien, professeur à l'École nationale supérieure d'architecture et de paysage de Bordeaux, chercheur à Passages-UMR 5319 du CNRS
- ・ Béatrice Collignon, géographe, professeure à l'université de Bordeaux-Montaigne, directrice de l'UMR Passages 5319

Projets de paysage

- Gérald Domon, géographe, école d'architecture de paysage, université de Montréal
- Pierre Donadieu, professeur émérite en sciences du paysage à l'École nationale supérieure de paysage de Versailles-Marseille
- Sabine Ehrmann, artiste, docteure en esthétique, enseignante à l'École nationale supérieure d'architecture et de paysage de Lille (ENSAPL), chercheuse du Laboratoire Conception Territoire Histoire Matérialité (LACTH)
- Georges Farhat, architecte, historien des jardins et du paysage, Associate Professor, université de Toronto et membre fondateur du Laboratoire de l'école d'architecture de Versailles (Léav)
- Viviana Ferrario, architecte, enseignante-chercheuse à l'université IUAV de Venise
- Marina Frolova, géographe, professeure au département de géographie régionale et physique, faculté de philosophie et de lettres, université de Grenade
- Josefina Gómez Mendoza, professeur émérite de géographie à l'université autonome de Madrid
- André Guillaume, professeur d'histoire des techniques au Conservatoire national des arts et métiers à Paris
- Fabienne Joliet, professeure de géographie à Agrocampus Ouest (pôle paysage d'Angers), UMR 6590 CNRS Espaces et sociétés (ESO)
- Laurent Matthey, géographe, professeur assistant, département de géographie et environnement de l'université de Genève
- Francesca Mazzino, professeure en architecture du paysage, coordonnatrice du master interuniversitaire « projet des espaces verts et du paysage », université de Gênes
- Yves Michelin, géographe et agronome, professeur à VetAgroSup
- Diego T. Moreno, professeur de géographie, coresponsable du Laboratoire d'archéologie et d'histoire environnementale (LASA), DAFIST-DISTAV, université de Gênes (Italie)
- Philippe Poullaouec-Gonidec, architecte, paysagiste et plasticien, directeur de la chaire Unesco en paysage et environnement (Cupeum) et de la chaire paysage et environnement (Cpeum), professeur à l'École d'architecture de paysage de l'université de Montréal (Canada)
- Sylvie Salles, architecte et urbaniste, Ensa Paris-Val de Seine
- Anne Sgard, professeure de géographe, université de Genève
- Nicole Valois, professeure à l'École d'urbanisme et d'architecture de paysage de l'Université de Montréal (Canada).